



かわしま

mail:y3kawash@edu.city.yokohama.jp

http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kawashima/

学校だより 5月号
平成 20 年 5 月 1 日
横浜市立川島小学校
校長 小池 慎一
TEL 3 7 1-0 7 5 7
FAX 3 8 1-7 2 4 8

風薫る5月 光の世界へ

学校長 小池 慎一

桜の花が散りかけていた入学式・始業式から1ヶ月が過ぎました。

子どもたちは、5月の明るい光の中で元気に校庭を走り回っています。

さて、最近の子どもたちは、自己肯定感が弱いとよく言われます。

本校の児童も例外ではなく、先日実施された全国学力・学習状況調査の「児童質問紙」の設問の中に「難しいことでも失敗をおそれないで挑戦している」「自分には、よいところがあると思う」という項目がありました。本校の6年生の児童の回答は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計が、いずれの設問も50% 台前半でした。

同じ調査の中で「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある」と答えた児童は、90% 弱いので、自分自身の中では、成就感を味わった経験があるのだと思われます。

一人ひとりの子どもたちを見ていると、本校の子どもたちは、確かに一人ひとり輝くものを持っていますが、それが自信というところまで達していないということなのでしょう。

自己肯定感や自分自身に自信をもつということは、周りの人への優しさにつながると考えられます。子どもたちは、自分が認められていることを実感できてはじめて、他の人のことも認めることができるようになるのです。

子どもたちが、自分に自信をもつための一つの方法としては、例えば「あいさつ」を心がけることもあるでしょう。知っている人に元気にあいさつをすることで、相手があいさつを返してくれ、褒められているというわけではないけれど、自分の存在が認められていることを実感できるからです。特に目と目があって、微笑みが交わされたりすると、余計そう思うものです。

また、私たち大人ができることとしては、悪いところや間違えたところは厳しく叱るとしても、子どもたちをもっとよく見て、「よさを見つける」ことだろうと思います。

これからも学校では子どもたち一人ひとりのよさを認め、これを伸ばしていく指導を続けていきますが、ご家庭でも、お子さんのよさを認める機会を増やしてみたいかがでしょうか。

今回の調査では、夕食を家族と一緒に食べるという児童が、昨年の全国値よりもやや多めの90% 近くに達しています。

日々のなかで夕食を食べながら、お子さんの話にじっくりと耳を傾けることだけでも、よさを認めることにつながり、自信をもたせることができるのではないかと思います。

